

NPO 埼玉森林サポータークラブ

NPO 埼玉森林サポータークラブは、平成九年三月、

「市民参加の森林づくり」推進を目的に設立した森林ボランティア団体で、県下全域から会員が参加し、活発な活動を展開しています。

会員は個人会員のほか埼玉大学ワンダーホーゲル部OB会、埼玉県森林インストラクター協会、埼玉県造林企業組合、ボランティア団体の西川木楽会など六団体が参加。会長は北村博氏で、平成一七年度には緑化功労者として内閣総理大臣賞を受賞しています。

活動は毎月土曜日、日曜日と祭日で、間伐や除伐、枝打ち、下刈りなどの森林整備に常時二〇人、三〇人が参加しているほか、森林・林業への理解を深めるため、様々なイベントへの参加も会の活動の重要な柱となっています。

埼玉森林サポータークラブの皆さん



公園や公有林の整備

国営埼玉森林公園では、林床が暗くなった地区でヒサカキの除去作業を行っています。また、間伐や竹林の整備、枯損木の処理、枝打ちなど高齢化で手入れが出来ない私有林の整備を積極的に行っており、地域の

人びとから喜ばれています。

さらに、森林ボランティアに対する安全研修や自然観察会、緑の募金活動、緑の少年団活動の支援にも取り組んでいます。

平成一七年三月には「越生ふれあいの里山」活用実施計画を策定し、五カ年計画で県・越生町・地元関係者と連携して、里山体験、見本林の



〈写真上〉 伐採した幹や枝は風などに飛ばされないよう揃える
 〈写真下〉 かり木の処理には数人が集まって共同で作業



チームワークが安全作業の条件

展示、森林セラピー、森林ボランティア団体の育成などに取り組んでいます。この活動では、町内にある66軒の県有林と41軒の町有林を対象として、県民が森林とふれあう場として活用できるよう整備しているだけに、作業にも自然と力が入ります。

県内の越生地区では、温泉付き憩いの場「ユーパーク越生」公園の管理とその周辺の私有林の除間伐など

も行っています。公園周辺の私有林では、シラカシなどの常緑広葉樹が進入して枯死する針葉樹が目立ち、公園の美観にも影響を及ぼしていることから、県と森林所有者の依頼で常緑広葉樹の除伐作業を進めています。

森林作業には危険が伴います。特に常緑広葉樹は枝が大きく広がっているため、伐倒に当たっては細心の注意が必要です。四人一組の班を編成し、作業前に念入りに安全作業の徹底を指示しています。広葉樹は伐倒するとき枝が大きいために「かり木」となりやすく、かり木の処理には、近くで作業している人たちが四人五人と集まってロープを引き、根元をテコで押し上げ安全に処理します。そこには個人プレーはまったくみられません。素人ばかりのボランティアですが、森林作業の危険を知る人たちの細かな配慮がチームワークを支えています。伐採した幹や枝は、風雨で散乱しないように立木の上側にていねいに揃えて置く細心の配慮が、美しい森を創る秘訣なのかもしれません。

NPO埼玉森林サポータークラブ
 〒330-0063
 さいたま市浦和区高砂3-12-9
 埼玉県農林会館B1
 埼玉県緑化推進委員会内
 電話 048 (814) 2770
 FAX 048 (814) 2771
 平成9年1月21日発足
 平成13年12月16日特定非営利法人埼玉森林サポータークラブ。事務局名をNPO埼玉森林サポータークラブとする。



作業開始前には全員で準備体操